はじめよう協働のまちづくり No.2

いったん、廃止が決まった菖蒲園を市民の力で存続へ

おちあい花菖蒲園植育の会

市の力だけではできなかったことが、市民が手を挙げ、お互いが協力しあった結果、新たな展開が生まれた。今回、紹介するのはそんな一例です。

毎年６月にたくさんの菖蒲の花が咲き乱れ、市民の憩いの場となっている落合の花菖蒲園。平成15年、それまで菖蒲園を管理していた能代市開発公社が、財政難からやむなく、菖蒲園の廃止を決めました。しかし、廃止が決定された直後から、「残念だ、なんとかならないか」という意見があがり、ついには存続に向けた市民ボランティア『おちあい花菖蒲園植育の会』が結成。市としても、存続に向けた市民の活動をできるだけ支援していくことにしました。

しかし、会員にとって、菖蒲の栽培方法、年間の作業スケジュールの設定など、何もかもが初めてのこと。資金面では、市から100万円の補助金があるものの、これまで菖蒲園の維持にかかっていた経費は年間250万円。約130人の会員から、年間1,000円の会費をもらっても、維持費用が十分ではありません。さらに会員には、高齢者や、日中仕事をしている人が多く、草取りや株分けなどの作業に参加できる人は決して多くありません。

そんな苦労がありながらも、16年６月、市民の手による新生『菖蒲園まつり』は開催されました。市民の行動が菖蒲園の廃園を救ったのです。これまでより規模は小さくなりましたが、たくさんの人の思いが詰まった菖蒲園に、多くの市民が足を運びました。今年も、菖蒲園に花を咲かせるために、菖蒲園では市民ボランティアが汗を流しています。

『おちあい花菖蒲園植育の会』では、会員を募集しています。菖蒲園の存続に力を貸してください。

事務局　安部　☎54－9549

まちかどウォッチング

大空に舞い上がれ!!

4月24日(日)、能代港中嶋ふ頭で全市凧揚げ大会が行われました。県内外からたくさんの人が参加し、色とりどりの凧が春風に乗って青空を舞いました。

いつも元気

向ケ丘子ども屋台村

のーろ逍遥　歴史と民俗のあいだ 69

馬の絵(八)　「相染森・放馬」

河戸川村の支郷相染森には、古くから相染神社があり、現在に続いています。能代から金光寺に行く大間越街道の脇の小高い丘の上にあります。その西方に隠れるように相染森の部落があります。相染は蒼前とも書き、馬の守護神です。相染森の北方に展開する台地上は馬の放牧地でした。現在の船沢温泉の西方になりますが、黒ボク土の展開する草原地帯で、放牧には好適の場所でした。夕方農作業が終わると馬を放しに行き、朝連れてきます。それは子どもの仕事でした。冬に子どもたちはスキー場として遊びました。相染森の南部に広がる田んぼは、柏子所・大内田・河戸川・浅内の村々の耕地ですから、農耕馬の守護神が必要でした。それが相染神社を勧請させたのでしょうが、古代学者の新野先生は古い時代に北方からもたらされたものと考えています。

馬が使われていたころ、五月五日の節句には近隣の村々から馬を連れて祈願に来る人が絶えなかったといいます。堂内の壁面には絵馬がたくさん張られています。奉納者は相染森に限らず、浅内・河戸川などの人たちで、中には能代の人もおります。馬車屋さんでしょうか。馬と人のつながりを語る神社です。

（古内龍夫）

●毎月第2・4木曜日発行　●編集と発行　能代市市民まちづくり支援課　〒016-8501　秋田県能代市上町1-3　TEL0185-89-2147　●印刷　㈱大潟印刷